

暖 冬 少 雪

今年の暖冬少雪とその後も続く温暖な気象によって、当所構内の約200本のチシマザクラが早くも4月下旬に満開となりました。桜前線は平年より17日早く4月末に稚内に到達し、静内町二十間道路などで観測史上最も早く満開となったそうです。

昨年12月の寒さと札幌圏での記録的な大雪から一転して、1月以降は暖冬少雪が続き、札幌雪祭りでは一部の雪像が暖気のために崩壊しました。3月下旬には札幌市内の道路からは積雪がほとんど消え、市では除雪費に約8億円の余裕ができたことから、雪堆積場の雪割作業などを前倒して行なったそうです。毎年、雪の量に一喜一憂している市町村の除雪担当者も今年はほっとしているのではないのでしょうか。この暖かさには強い偏西風が影響しているようですが、北海道では珍しい黄砂現象まで発生しました。いつもより一足早い春の訪れは北国の人々の気分も軽くしてくれますが、一方、北海道の交通事故死亡者数は例年よりも急速に増加しています。路面から雪氷が消えたことによって、ドライバーの運転から慎重さが欠けてしまうことが原因と考えられます。

1月末に札幌で開催された第11回国際冬期道路会議（PIARC）及び第11回国際道路気象会議（SIRWEC）が盛況のもと終了しました。冬の問題については、同じ課題であっても、国や地域によって気象条件や社会条件が異なり、対応に大きな違いが生じる場合が多く、お互いの背景を充分理解することが重要だと感じています。海外からも多くの研究者や技術者が参加されましたが、本来の北海道の厳しい冬の気象状況を体験していただくことができなかつたのが少し残念でした。

また、寒冷地技術について調査・研究している当研究所としては、余りにも極端な暖冬少雪は十分な調査データが得られない年となってしまう場合があり、喜んでばかりもられません。

（維持管理研究室長 岳本 秀人）

* * * *

表紙右上記号 ISSN 1346-6747の説明

ISSNはInternational Standard Serial Number（国際標準逐次刊行物番号）の略で、逐次刊行物に付与される国際的なコード番号で、ISSD（国際逐次刊行物データシステム）という組織のもとで逐次刊行物の組織や検索に利用されます。

この番号は国立国会図書館ISSD日本センターから割り当てられたものです。